

# SASTEC 第5回研究会還流報告

中富良野町立旭中小学校

渡辺 恭平

# 研究会プログラム

- 1 実践発表 札幌聖心女子学院の小学校出前授業実践報告  
札幌聖心女子学院教諭 市川 暁子
- 2 実践発表 小学校英語活動を校内で広めるための第一歩  
札幌市立新琴似緑小学校教諭 割石 隆浩
- 3 実践発表 江別市の英語活動  
～副読本(Fuwa Fuwa English)を使った実践から～  
江別市立大麻東小学校教諭 宮浦 匡典
- 4 実践発表 B-SLIMに基づく英語活動の実践  
中富良野町立旭中小学校教諭 渡辺 恭平
- 5 シンポジウム 英語活動本格化へ向けて  
提言1 北海道工業大学教授 秋山 敏晴  
提言2 旭川市立北光小学校教諭 小山 俊英

# 実践発表1

## 札幌聖心女子学院の小学校出前授業実践報告

○文部科学省Super English Language High School (SELHi) 指定校  
(2006年度より)

○研究開発課題の大きな柱は「教材の開発」

①「使う力」を育てる「A-B-A活用型教材」

②「探る力」を育てる「構造習得法教材」

→英語コミュニケーション能力を伸ばす

○昨年度より「A-B-A活用型教材」の中の一部のアクティビティを使い、  
聖心女子学院の生徒と教員が近隣小学校で、英語の出前授業を実施  
→教材、指導法など英語教育に関する資料、情報を相互に共有することで、  
本当の意味での「英語教育の連携」につながる

○放課後の事前トレーニング、出前授業の実際を映像を通して発表

## 実践発表2

### 小学校英語活動を校内で広めるための第一歩

- 英語が不得意
- 教えたことも、見たこともない

- 基本的に担任が主
- 5・6年だけで実施すればよい？
- 35時間分のカリキュラム作成
- ALTの活用法
- 地域人材の活用法

不安・・・

○小学校英語は、楽しく学ばせたい・教えたい！

#### ①校内研修のあり方

- ・笑って楽しく、まちがってもOK→雰囲気作り
- ・45分×→5分や10分のコマを重ねていく
- ・全員が体験(HRTが主となることを意識して)
- ・短時間の研修を何度も開催

#### ②ICT機器の活用(プロジェクター、電子黒板、実物投影機の活用)

## 実践発表3

### 江別市の英語活動 ～副読本(Fuwa Fuwa English)を使った実践から～

○平成18年度「小学校英語活動あり方」委員会を設置  
→市内で行われている英語活動についての検討が始まった

○教員対象のアンケート結果から

問 「英語活動充実のために必要だと思うこと」

- ①職員の研修
- ②指導計画等の整備
- ③指導資料の整備

→「あり方委員会」・・・副読本ならびに指導書の作成

①副読本、指導書の作成までの流れ

②副読本・指導書の紹介

③副読本を使った実践

についての発表

## ○授業で意識していること

①十分に「**耳で聞く**」活動を取り入れる

→注意して聞かなければいけない**状況**をつくる

②練習、ゲームを行う場は、小から大へ

→「個人」・・・「ペア」・・・「グループ」・・・「全体」と  
場を大きくしていく



たくさん話す機会をつくる

③型にはまった会話ばかりは・・・

→意味のある発話、コミュニケーションを求めたい

## ○これからの英語活動(「楽しい+α」を求めて)

### ①既知の内容をどう生かすか？

→他教科との関連も視野に入れて

EX 社会科の町探検→町探検地図を作ろう

### ②高学年に向けての英語活動

- ・知的好奇心をかき立てる活動

- ・outputは簡単なものに

→頭では高度に考えさせ、outputは簡単に

### ③担任が行う英語活動

- ・視聴覚教材の活用など

# シンポジウム

## 英語活動本格化へ向けて

### ■提言1 「札幌市の英語活動現状と課題」

#### ○実態調査

- ・調査団体 札幌市中学校英語教育研究会(協力 SASTEC)
- ・調査対象 全札幌市立小学校
- ・調査時期 平成20年5月
- ・調査回答 189校(回収率91.3%)

# シンポジウム

## 英語活動本格化へ向けて(提言1にかかわって)

### ①実施状況

平成19年度 58校(全体の約1/4)が1度も実施せず

平成20年度 1度も実施予定がない学校は40校ほどに

高学年だけに注目すると、8割で英語活動が始まっている

### ②英語活動の指導目標

何らかの目標に設置されている .....55.6%

指導目標として設置されていない.....44.4%

※「何らかの目標」とは、①学校教育目標 ②教育研究目標 ③学年の指導目標 ④教員個人の指導目標 を指す

### ③カリキュラムの作成

学校・・・20%

学年・・・20%

(有能な)担当教員(にお任せ)・・・2%

外部協力者・・・3%

その他・・・6%



カリキュラムなし・・・49%

### ④英語活動の課題

カリキュラム編成・・・ 29%

教材開発・・・ 21%

教員の英語力・・・ 17%

教員研修・・・ 19%

小中連携・・・ 1%

教員の積極性・・・ 3%

行政の支援体制・・・ 4%

教員相互の協力体制・・・ 1%

教材とカリキュラムで50%

指導者の問題で36%

## ⑤感想(自由記述から)

- ・ALTへの期待(12/40)
- ・教員の負担増と人事(8/40)
- ・カリキュラムの作成(8/40)
- ・教員研修の必要性(5/40)
- ・特別予算の獲得(3/40)
- ・小学校で英語を扱う必然性(3/40)
- ・小学校と中学校の連携(1/40)

## ⑥全国的な動き

- ・小学校英語教育学会(JES)福島大会→375名の参加者

### 《本年度の傾向(研究発表から)》

- ・文字指導に関するもの<10/48>
- ・6年生に知的満足を与える活動
- ・英語活動の評価(目標を設定し、そこまで引き上げることで、子どもを高める)
- ・英語活動の多彩化(特別支援学級、複式学級でも可能な)

# 英語活動本格化へ向けて(提言2にかかわって)

## ■12の提言

### ①小学校外国語活動が学習指導要領に明記！

- 何を、どのようにするのか？
- 学習指導要領を読み解く
- 万全の準備を(「必修化10のチェックリスト」)

### ②どこから、何から手をつける？

- 学習指導要領を知る
  - 学校教育構想の位置づけを明確に
  - 目指す子どもの姿の共有化
- スタートの3条件
- 実技研修の実施～「楽しさ」の実感は、固さとバリアを粉碎する
  - 少人数からでも始めよう

### ③校内体制をどうつくる？

- 特に、外国語活動に対する基盤が十分ではない学校では、
  - ・中心的役割を担う者・・・核として少しずつ
  - ・外部から推進者を招いて取り組む
  - ・校長・教頭のリーダーシップ

### ④地域サポートは万全？

- 本来、教育委員会等がイニシアチブをとって進めるべきであろう。

### ⑤指導方法は？

- 共通の指導方法を導入して取り組むことが成果につながることは、先行実践(東川第三小、留萌礼受小)で明らか

### ⑥今だから、とにかく交流そして発信！

- 内容や質にこだわることはない
- 個が、学校が、サークルが発信
- ネットワークが大事、実践が大事



何でも発信・交流  
発信することで学ぶ

## ⑦小学校英語ノートはどう使う？

- 拠点校に配布。それに伴う「指導書」も配布されている。
- 各出版会社等のテキストや地域作成教材との比較も大切

## ⑧カリキュラムは、どうしよう？

- 移行期間に作成が必要
- ハードカリキュラム(学年別・月別・内容)の作成
  - ・・・児童のニーズを取り込めるゆとりは必要
- 総合的な学習の時間と外国語活動の「ねらい」に相違があるため、総合のときに作成した英語活動の「カリキュラム」がそのまま使用できるとは限らない。見直しが必要。

## ⑨本当に大事になる小中連携～主張できる小学校でありたい！～

- お互いに「知る」ための場を
  - ・・・AEENではすでに交流を持っている
- お互いに「語る・求める」ための場に
  - ・・・「点」を「線」にできるための主張を！

## ⑩人材は？ALTはなかなか来ないし、外部人材は活用が難しいし・・・

- 学級担任が中心となる指導
- native sound(それに近い音でも可)は指導上有効(必要)  
・・・それを何で確保するか？
- 頻繁に招聘できるALTは有効【役割分担の明確化】
- 外部講師(外国人講師、J-shine・・・)も有効
  
- 学校が主体性を持って、外国語活動に対する考え方を説明。  
外部講師はあくまでもその実現をサポートする役割を担う。

## ⑪みんなで一步を踏み出そう！でも、肝心なことだけは忘れずに！

- 肝心なこと・・・①英語学習者の心理 ②基本的な約束事
- 指導方法は多様でいい。しかし、指導の進め方(考え方)は、しっかり押さえる
- 旭川では
  - \*「Small step」による構成
  - \*「Vision」と「Plan backward」の考え方
  - \*「Input」「Output」の充実

## ⑫特別支援学級における英語活動

○英語活動の特質を生かした実践

- ①「非言語コミュニケーション」として生かす英語
- ②独特の「リズム」を伴う英語
- ③TPRを取り入れた英語活動

## おまけ 小学校外国語活動拠点校に注目

○カリキュラム作成

○小学校英語ノートを用いた実践



○成果発表会を活用しよう

○英語情報の引き出しを

## 英語活動本格化へ向けて

■質疑応答(参加者からの質疑にシンポジストが答える)

### □教員研修

○文部科学省→指導主事への研修会は終了

英語ノート、指導書の作成作業もほぼ終わっている。

中核教員養成？はまだ。しかし、予算はついたのでこれから行われる。

○校内研修では・・・

①まず、教員が英語に向かおうとするモチベーションが大切！

②その上で、少しずつ歩みを進め、「少しの負荷」「少しの宿題」を出していくのが望ましいのではないか。

○指導力向上

①各ブロックで1名程度は研究会に参加する雰囲気作りを！

②道研講座の受講

③上川教育研修センター講座の受講

④校内研修に外部からの指導者を招聘

## □文字指導

○現在、タブー(中学校の前倒しをしないということ)ではなくなってきた

①文字を示すことへの挑戦が始まった

picture cardに文字をプラスしたカードの使用



inputと同じように考えたい

※文字のみでどれだけイメージできるか？→けっこうできる！！

②文字を見て発音できるのか？

※小学校3年生程度で、その力が備わっていることが確認

○どう文字指導を入れていくべきか、が議論の中心になっていこう

□5・6年生指導 英語嫌いを生まない small step

○指導内容・指導方法と密接にかかわっている

素材提供

○ゴールを意識した活動計画の作成を！

○3・4年生への指導をどうするか？（総合？余剰？・・・）

ベクトル・整合性が課題

5・6年

Output

3・4年

単語＋簡単な表現

自己表現を目指す

## □小中連携

○道のりはハード 決して簡単ではなく、かなりの努力が必要

学習指導要領 中学校外国語

…聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。

連携

- ・どんな場で
- ・何の目的のために
- ・どんな文法が必要なのか

小学校外国語

コミュニケーション能力の素地を養う

○口ぐせになっている部分を教えていく

○「こういう場面では、こう言うよ。」と教えることでOK

※宇都宮市「会話科」…英語35時間、日本語17時間で構成

## □カリキュラムの整備

○移行終了・スタート時に、35時間分のハードカリキュラムを準備

○文部科学省作成「英語ノート」「指導書」にレッスンプランあり。  
このプランを活用するのがよい。

○移行期は実践力をつける場 準備を万全に2年後のスタートをむかえよう

○各校の特色を出す場とする

○指導体制・指導方法の検証に時間をかける

・この部分を手厚く・・・ ・ここは手直しをして・・・

教育目標

育てたい子ども像

指導の重点

※他教科とタイアップさせたり、横断的に英語活動を取り入れていく